

## 徳島県那賀町で採集されたカトウツケオグモ

清水克洋<sup>1</sup>・清水正仁<sup>1,2</sup>・坂東治男<sup>3</sup>・山田量崇<sup>4</sup>

[Katsuhiko Shimizu<sup>1</sup>, Masahito Shimizu<sup>1,2</sup>, Haruo Bandô<sup>3</sup> and Kazutaka Yamada<sup>4</sup> : The second record of *Phrynarachne katoi* Tikuni, 1955 (Araneae : Thomisidae) from the Tokushima Prefecture, Shikoku, Japan]

### はじめに

カトウツケオグモ *Phrynarachne katoi* Tikuni, 1955 はカニグモ科ツケオグモ属に含まれるクモで、メスの特徴的な色彩や形態は、一見して鳥の糞に似るとされる（八木沼, 1986 ; 大野, 1994 ; 小野, 2002 など）。本種が属するツケオグモ属 *Phrynarachne* は、アジア、アメリカ、オーストラリア、オセアニアなど旧世界の温帯から熱帯地域を中心に広く分布し、およそ 30 種が知られる。現在、日本には 2 種のツケオグモ属が知られており、そのうちヘリジロツケオグモ *P. ceylonica* (O. Pickard-Cambridge, 1884) は八重山諸島に分布、カトウツケオグモは本州、四国、九州、南西諸島に分布している（新海, 2006 ; 小野, 2009）。また、後者は韓国や中国からも知られる。

2010 年 6 月に徳島県那賀郡那賀町にて、著者の 1 人清水克洋が、葉の上で静止している見慣れないクモを発見した。黒と白の特徴的な色彩や腹部背面の形態から変わったクモではないかと考え、那賀町立相生中学校を經由して徳島県立博物館へ持ち込まれた。後日、山田が本種をカトウツケオグモと同定し、本種の徳島県におけるこれまでの記録を調べてみたところ、1979 年の記録があるのみでそれ以外は全く知られていないことが判明した。今回の発見が徳島県のみならず四国における数少ない本種の知見であるため、今後の分布情報の一助とするべくここに記録しておきたい。

はじめに、本種の四国における文献についてご教示いただいた東京大学の谷川明男博士と、本論文をまとめるにあたってご援助いただいた那賀町立相生中学校の森江孝志氏に心からお礼申し上げる。

### 徳島および四国における記録

前述したとおり、本種の徳島県における最初の記録は、1978 年 9 月 24 日に採集された個

---

2011 年 2 月 28 日受付, 3 月 3 日受理。

<sup>1</sup> 〒771-5411 徳島県那賀郡那賀町横石字向原 15. Mukôbara 15, Yokoishi, Naka-chô, Tokushima, 771-5411, Japan.

<sup>2</sup> 那賀町立相生中学校, 〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字大原 100. Aioi Junior High School, Ôhara 100, Nobeno, Naka-chô, Tokushima, 771-5406, Japan.

<sup>3</sup> 四国大学, 〒771-1192 徳島市応神町古川字戎子野 123-1. Shikoku University, Furukawa 123-1, Ôjin-chô, Tokushima, 771-1192, Japan.

<sup>4</sup> 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima, 770-8070, Japan.

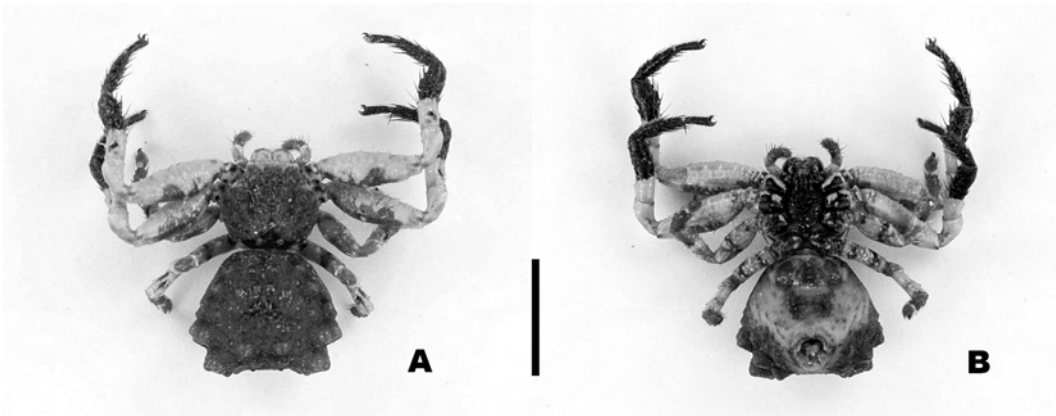


図1. カトウツケオグモ, メス, 成体 (徳島県那賀町産). A, 背面; B, 腹面. スケール=5.0 mm.

体によるものである (真鍋ほか, 1979). その個体は, 徳島県市場町城王山 (現, 阿波市市場町) から採集されたメスの幼体 1 個体で, これは同時に四国初記録ともなる. その後, 2000 年に愛媛県から記録され (山本・西川, 2000), 2006 年には愛媛新聞の記事で取り上げられたが, それ以外の公の記録は知られていない. また, 最近, 高知県や愛媛県の一部の地域において本種の日撃例があるようだが, いずれもインターネットからの情報である. 本種は特徴的な色彩と形態を備えるため同定が容易で且つ人目に付きやすいことが考えられ, インターネット上でも本種に関する多くの情報が簡単に入手できることから日撃例が増加していると考えられる.

#### 発見時の状況

今回の個体は, 清水の自宅の茶畑 (図2) にて発見されたものである. これまで報告されてきた発見時の状況と同じように, 本種は, 葉の上で動かずにじっとしていた.

[検視標本]

1♀ (成体), 徳島県那賀郡那賀町横石字向原, 2010年6月17日, 清水克洋採集 (TKPM-AR-3035) (図1A, B).

#### 考 察

本種の生態的知見は, 大野 (1994) によって生息環境や行動などが記載されるまでは断片的な記録しかなかった. いずれの記録も, 葉上で静止しているところを発見した例が多く, 植物種もさまざまである. 捕食性のジェネラリストであり, 待ち伏せ型の捕食行動を取ることを考えれば, 植物種に対する選好性は考えにくい. 今回も, 茶の葉上といった開放的な環境で確認されているため, 大野 (1994) の記述と一致する. さらに, 本種を含むツケオグモ属のクモは, 化学擬態によって餌昆虫を誘引することが示唆されており, 検証が行われているものの (千田ら, 1999), その可能性は未だ判然としていない.

カトウツケオグモを扱った多くの文献には, “個体数の少ない珍しいクモ” (千国, 1989)



図2. カトウツケオグモが発見された茶畑（徳島県那賀郡那賀町横石）。

や“個体数は極めて少なく，稀少種”（新海，2006）という記述がされており，発見例の少ない稀な種であることが推察できる．そのため，発見された際には新聞誌上で取り上げられることもあり，“日本の7大珍種グモ”などと言われることが多い．実際，各都道府県が発行しているレッドデータブック（絶滅のおそれのある野生生物）において，愛知県では絶滅危惧IB類（EN: Endangered），三重県，鳥根県，徳島県，長崎県では情報不足（DD: Data Deficient），兵庫県では要注目種などのカテゴリーに掲載されていることから，個体数の少ない稀少なクモであることがわかる．しかしながら，インターネットの情報によると，最近では関東や近畿地方を中心に発見例が増えてきているようで，分布や生態情報が集まりつつあると思われる．四国では，今回の発見も含めると徳島県と愛媛県における3例のみが公の記録として報告されている．その数は，本州や九州，南西諸島の発見件数と比べると圧倒的に少ない．四国の他県においてもいくつか目撃情報があるため，分布状況を把握する上でも何らかの形で記録されることが強く望まれる．

## 引用文献

- 千国安之輔．1989．写真日本クモ類大図鑑．308 p．偕成社，東京．
- 千田高史・深見 理・宮下 直．1999．ツケオグモ属 *Phrynarachne* は化学物質によって餌昆虫を誘引するか？ *Acta arachnologica*, 48(1) : 71-74.
- 真鍋佳資・田村太一・坂東治男．1979．市場町の真正クモ類．郷土研究発表会紀要，(25) : 29-40.
- 小野展嗣．2002．クモ学 摩訶不思議な八本足の世界．224 p．東海大学出版会，東京．
- 小野展嗣．2009．日本産クモ類．738 p．東海大学出版会，神奈川．
- 大野正男．1994．カトウツケオグモの知見総説．*自然史研究雑誌*，(5) : 17-28.
- 新海栄一．2006．日本のクモ．335 p．文一総合出版，東京．
- 八木沼健夫．1986．原色日本クモ類図鑑．305 p．保育社，大阪．
- 山本栄治・西川喜朗．2000．小田深山とその周辺のクモ類．小田深山編集委員会・山本栄治編，小田深山の自然 I，p.809-836．小田町，愛媛．